

(令和6年12月10日 午後3時35分 開始)

○議長（河野 浩一議員） 会議を再開します。

ここで会議時間の延長を申し上げます。会議規則第9条により、会議時間は、午後4時までとなっておりますが、同条第2項の規定により、本日の会議時間は一般質問が全て終了するまでに延長いたします。どうかよろしくお願いします。

休憩前に引き続き一般質問を続行します。

次に、河野禎明議員に発言を許します。

○議員（河野 禎明議員） 傍聴席の方、長時間、本当にありがとうございます。

一般通告に従い、2項目質問させていただきます。

1番、中学校に関するアンケート、最近これは町内に全世帯に配布されたアンケートについてです。

2番目、乗り合いタクシーの早期導入についてお伺いしたいと思います。詳しいことは下の質問席からお伺いしたいと思います。

町長にお伺いしたいんですけど、この教育委員会のアンケートは見られましたでしょうか。

○町長（宮崎 吉敏君） 河野議員の質問にお答えします。先日、私の自宅のほうに文書で届いてまいりました。QRコードを使って御返答したところです。

以上です。

○議員（河野 禎明議員） 最初にちょっとこのアンケートの担当の方にお伺いしたいんですけど、ここに、これはもしかしたら間違いなのかというアンケートの2ページ目です。ここに4を回答された方は当てはまる場所を、アとウの中から回答してくださいとあるんですけどこれは4でいいんでしょうか。

○教育課長（三好 益夫君） ただいまの御質問ですが、それ設問用紙ですかね、ちょっと手元にないので、多分中身がおかしいんじゃないかという御質問かなと想像しておるところなんですけど、ちょっと個別のことに関しては後ほどお答えさせていただけると助かります。申し訳ございません。

○議員（河野 禎明議員） これは、ちょっとよく考えると4じゃなくて3だと思いますので、また確認してください。

このアンケートの返送先が福岡の東亜建設コンサルタントとなっているんですけど、町民の方から何人かちょっと連絡いただいて、また中学校建設のための目的じゃないのかとか言われるんですよ。東亜建設というところが何でこの教育委員会のアンケートを扱うのか、私たちも何か建設ありきじゃないかとかこういう心配があるんですが、町長、この返送先のことについては御存じですか。

○町長（宮崎 吉敏君） 河野議員の質問にお答えします。

建設会社のこれICTだったですかね、すいません。ちょっとよく記憶に定かではありませんがICT部ってなっていたと思うんです。ですから、私が考える、これはもう内容等についても

一切私タッチしておりませんので、私が考える中では町民全世帯18歳以上の方々に配布をしてお答えを求めるそのときには多分これは僕の想像です。すいません。そこの部署がA Iを活用した集積をする部署じゃないかなというふうに私はそのアンケート調査を見て感じました。恐らく人手で人の手でまた川南町の職員でやるというのは、それだけの莫大なアンケートの結果を早期に出すっていうのは非常に厳しいじゃないかなと。基本的には12月23日までに結果が出るということになっておりますので、そういったA I技術を活用した事業所ではないかと思っています。

以上です。

○議員（河野 禎明議員） 去年町長は商工会長されていたんですよ。そのときに新中学校建設推進に熱心に活動されていました。私は新中学校建設反対を一生懸命頑張っております。立場が違っていました。そのとき町長が商工会長のときに会員にファックスをされていた。去年の4月21日のあれだったと思います。その中で新中学校建設費が77億円とか書かれていたのをちょっと私今思い出したんですけど、今度アンケートの中に出してある建設費が54億5000万ぐらいと出ているんです。あれ、これは何か金額が、どういう根拠なのか、よく考えてください。もう物は建築材料も何もかももう1年じゃないです極端に言ったらもう2、3カ月でどんどん上がってきているんです。去年こういう77億とかいう数字が出ていたのに、これ町長が考えても、54億5000万、おかしいんじゃないかと思われませんか、どうですか。

○町長（宮崎 吉敏君） 河野議員の質問にお答えします。

私が会員宛てに出した文書は、総額は70億円です。この根拠は、当時副町長であった押川義光さんから伺いをし、そのように表現させていただきました。今回のその54億等については、私の範囲内では知るよしもあります。

以上です。

○教育課長（三好 益夫君） 少し補足で説明をさせていただきます。まず、なぜ東亜建設コンサルタントに頼んでいるかということなんですけど、今回資料を見ていただくと、長寿命化の工事を行った場合、それから新設した場合ということで数字が出ていると思うんですけど、こういったことは建設コンサルタントではないと算出ができないため、ここをお願いをしているところです。

それと、先ほど町長はA Iとおっしゃったんですけど、そこまで高度ではないと思うんですけど、やはり専門のコンサルタントのほうが私ども職員がやるよりは効率よく集計とかもできるということでお願いをしております。

それと、議会勉強会の時にも申し上げたんですけど、第三者による集計のほうが客観性があるというということで、そのようなことでこのコンサルタントに頼んでいるということになっています。

それから、建設費用の算出をどのようにしているかというところなんですけど、長寿命化の場合はいろいろな想定をしてもらって今回新たに計算をいただいているんですけど、新設に関しては以前中学校の建設計画といったのがございましたので、こちらのほうに現在の資材単価がどれぐらいになっているか、何倍になっているかというのを概算で出させていただいて、それを面積に掛けてということで出させていただいています。

先ほどから議員がおっしゃっているのが概算工事費という部分になっております。こちらに実際は撤去費用、調査費用、仮校舎費用—仮校舎はないですね—、消費税を足してということで、

約70億円でということで合計はなっているところです。

ただ、これもあくまでも現在の情勢に基づいてということで概算で出しておる数字ですので、実際に設計したときにこの金額になるかということ、必ずしもそうではないというようなものにはなっております。ただ、アンケートを答えていただく上で、やはり数値的な比較ができないとなかなかわからないかなということで今回はこのような数字を載せさせていただいております。

以上でございます。

○議員（河野 禎明議員） 総額は70億円ぐらいと了解してもよろしいですかね。次に行きたいと思います。

ちょっと町民は何かここで私の連絡が50何億ちょっとやっぱり理解できてないところがあるみたいなんですけど、もしよかったら次の川南のお知らせでも教育委員会のお知らせの中で、やはり総工費はこれぐらいかかるかもしれませんという内容を出していただけると助かると思います。

今、町民からよく聞くんですけど、このアンケートもあるからなんですけど今中学校だけを予算を使わずに小学校も真剣に考えてくれという声があるんです。これもう令和10年には中学生は町内で360名ぐらいです。この中にはっきりと書いてあります。ということは360名だったら、令和10年は唐中を使えば中学校が統合できる可能性があると思うんです。あまり長寿命化とか別にしなくても、今の唐中がそのまま使えたら非常に無駄を省いていいと思うんですよ。

となると、ここで長寿命化にもあまり予算使わないから、唐中を統合で10年ぐらい使ったとします。その後に、当然父兄からも一番言われるんですけど、この生徒数の減少がもう普通ではないんです。去年が町内の出生数がもう前も申しましたけど65名なんです。この数がもう増えるということは、今から10年後、あまり考えられません。となると、町民の方が一番言われるのが、もう中学校せずに小中一貫校を考えるべきじゃないかと。だからこのアンケートに対しても、いろいろ苦情を私のほうに言ってこられるんです。これ当然、町長もこのことはビジョンとして、町長が在任中にそうだなと、この子供の数はどんどん減っているんだと。中学校だけじゃなくてこれは小中一貫校を視野に入れた方がいいなと思います。そして、小中一貫校を造るとき、鉄筋じゃなくて、県産材の木材を使うと、よそでもそうです。今木材を使った建物が全国でも多いんです。これだと国や県の補助が多いです。これをやると小中一貫校が早くできる可能性もあるんです。町長、今お気持ちとしてはどのように考えていらっしゃいますか。

○議長（河野 浩一議員） 今のことはちょっと通告書にはないし、そういう発言は許可しませんので注意してください。

（中断）中学校だけのことしか書いてなかったから。

○議員（河野 禎明議員） それでは、次に行きます。乗り合いタクシーの早期導入についてです。これは、町長、この乗り合いタクシーのこと御存じですか。

○町長（宮崎 吉敏君） 河野議員の質問にお答えします。

乗り合いタクシーを御存じかということですが、存じ上げております。近隣では、木城町、それから高鍋町等が実施されております。

以上です。

○議員（河野 禎明議員） そうですね。都農、木城、高鍋が乗り合いタクシーを導入していま

す。例えば、木城の例でいくとタクシーを1日借り上げています。そして8時から6時まで動かしています。前日予約が基本です。利用者を登録して前の日に予約するということです。そして1回、例えば1回乗って町内を移動するとします。木城は200円です。たしか都農は300円だったと思います。そして木城の場合は月水金、週3日間です。タクシーが動いているのは。そして、これが利用者が登録者が460名で大体1カ月の平均が50名から60名だそうです。年間どれぐらいの予算を使われているのか、木城の担当者に聞きましたら、大体300万ぐらいです。これが今やはり高齢者の方にもう停留所まで歩けないとか、もうそういう高齢者が多いんですよ。ここで、週に2日でも3日でもいいんですけど、この8時から6時この木城方式ですよ、タクシーを借り上げる。タクシー会社も助かると思うんです。この方式だと非常に取り入れやすいんですけど、この導入は来年度の導入は検討していただけないでしょうか、町長どうでしょうか。

○町長（宮崎 吉敏君） 河野議員の質問にお答えします。

現在、川南町では、トロントロンバス、オンデマンド式のトロントロンバス、また高齢者等については、タクシーの乗車券等を配布しております。当然トロントロンバスで利用できなかった方々に対しては、タクシーの利用を推進し、その効果を上げていると思っております。詳しいことについては担当課長のほうから答弁いたします。

以上です。

○まちづくり課長（稲田 隆志君） まず初めに、乗り合いタクシーについてちょっと説明をさせていただきます。国土交通省の資料によりますと、乗り合いタクシーについては、まず定時定路線型とデマンド型の2種類があります。デマンド型については乗降場固定型、それから自宅と乗降場を結ぶ自宅乗降場型、それからドア・ツー・ドア型がございます。

都農町と木城町がこの中で自宅乗降場型、自宅と福祉公共施設乗降場を含む指定乗降場と結んだ乗り合いタクシーでやっている。高鍋町については乗降場を固定した形でやっています。川南町で今やっているトロントロンバスというのは、名前はバスですけど、内容としては、乗降場固定型の運行方式に該当するのではないかと考えています。

それから、今年度実証的にやっておりますタクシーの利用料金助成事業について現時点での実績の報告をさせていただきたいと思います。まず4月の1日時点75歳以上で申請をした町民に対しタクシー券24枚を配付いたしました。タクシー券1枚につき基本料金いわゆる初乗り料金610円を助成するもので有効期限を12月末今月末までとしております。実績として5月から10月までの6カ月間ですが、合計で2,849枚6カ月間で2,849枚1カ月当たりになりますと、474.8枚、仮に1カ月を30日とすると1日あたり15.8枚利用されている状況です。タクシー利用料金助成事業はトロントロンバスでカバーできない例えば乗降場までちょっと遠くてという方の部分を補完する事業として考えておりますのでトータル的に交通弱者の方をサポートするという意味でそれぞれ事業としての効果はあるのではないかと考えているところです。

以上です。

○議員（河野 禎明議員） 今6カ月間で2,800万ぐらいとおっしゃいましたか。大変な金額が発生していたんですね。（発言する者あり）2,800枚、ああびっくりした2,800枚。金額は、木城が年間300万ぐらいですから、私が去年行った矢吹町が500万ぐらいの年間予算を使っていました。思ったほど利用者はいないかもしれませんが、やはり家に来てくれるということで、助かる方

が多いんですよ。雨の日やっぱ寒い日、暑い日、やっぱりお年寄りは大変だと思うんです。だからここはタクシー券も助かりましたけどやはり610円の後の料金を払わなきゃいけないわけだから、1回300円で乗れるというのだったらすごく助かるんですよ。そこ辺に町長、ここは思い切ってよし私が町民のためにやりましょうという声を一声いただけませんか。

○町長（宮崎 吉敏君） 河野議員の質問にお答えします。先ほど課長のほうから答弁がありました。今現在オンデマンドバスとそれからタクシー利用券で、まだスタートして10月の時点での結果ですのでまだ検証が足りないと思っています。この1年間どういう利用があったのかということも含めて今後交通会議等の中でしっかりと議論されていくことだろうと思っていますので私がやるやらないということに関してはお答えを控えたいと思います。

以上です。

○議員（河野 禎明議員） 宮崎町長の絶対これは町民のためにという声を期待して一般質問を終わりたいと思います。どうも。

（ 午後4時00分 終了 ）